

「与 え な さ い」

イザヤ書

第50章 4節～9節

マタイによる福音書

第5章 38節～42節

説教

岡村 恒牧師

「求める者には与え、借りようとする者を断るな。」(マタイによる福音書 5章42節)本当になくしてはならぬものを与える。それは主イエスが地上に来られた唯一の目的だったので。この日、主イエスは会衆がよく知っていた旧約聖書の律法に1つ1つ光を当てながら話されました。しかしそれは、地上でうまく生きて行く方法や人間が神に喜ばれる存在になっていく道を示したのでありませんでした。

まず神が世界を創り、命を創り、私たちを愛し、救いの約束を実現してくださった。そこから全てを解きほぐしていかれます。「『目には目を、歯には歯を』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。」(38節)中近東の多くの地域で、同様の法律が定められていました。これは自分が受けた被害以上のものを相手に負わせてはならないと言うものです。しかし実際には守られていないのが現実であります。私たちの内に起こる憎悪や怒りはいつでも増幅されてしまいます。

主イエスは、報復とは全く逆の方から私たちの人間関係を作り直します。「もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい。」(39節)しかしこれが用いられる場面はいつでも、キリスト教の教えを揶揄するときに使われるものでありました。「あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。」(40節)不当な裁判で財産が根こそぎ奪われる場面、全部明け渡してしまってもよい。主はそう言われます。「もし、だれかが、あなたを1マイル行かせようとするなら、その人と共に2マイル行きなさい。」(41節)主イエスがおっしゃるのは、全く違う仕方、神の前に生きる者として、人間関係を新しく作り直す話でありました。

そのようなことを実践したら、何もかも奪われ、命までが奪い取られるだろう。それが、この世の常識だと誰もが思うでしょう。しかし主イエスは、ただ目の前の群衆ひとりひとりを見つめておられました。律法を守り、地上を真面目に生き、神を礼拝して歩みながら、なお不安を抱え、痛みと悲しみを味わっている人々の姿です。いつ救い主が来て解放してくれるのか。そう待ち望む群衆を見て、羊飼いのいない羊の群れのようにだと、憐れんで下さいました。

あなたをお創りになり、生かしておられる神

がどういうお方か、もう1度思い出してごらんなさい、と主イエスは言われます。出エジプトの出来事、奴隷の家エジプトの地から神はユダヤ人を解放なさいました。「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である。」(出エジプト記 20章2節)、神はまずそう宣言されました。その上で、救い出された民に向かって、神を愛し、隣人を愛して生きてよい、と律法をお与えになったのです。人々はこの律法を誤って受け止めていました。神の教えに従うなら救われる。しかし律法を破るなら滅ぼされる。そこには恐れと不安がありました。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイによる福音書 6章33節)あなた方の神は、全知全能の神、全ての者の神だ。この宇宙で神の物ではない物など何一つない。聖書はそう語ります。だからもし誰かが、あなたの頬を打つなら、反対の頬を向けても良い。神はその一切をご存知だし、神がそれに報いてくださる、と。しかし実際には、この主イエスの教えを実践することはほとんどできませんでした。そこで主イエスご自身が完全な仕方、十字架で実践して下さいました。主イエスが、十字架にかけられる前、ローマ兵たちは主イエスの頬を打ち、あざけり、鞭打ち、上着も下着もはぎ取りました。自分が磔にされる十字架を背負って主イエスは歩かされました。主イエスは、このように神の前を歩いて良いと言われたことを、私たちに代わって実行なさったのです。

主イエスが語ってくださった言葉は、私たちを解き放つ言葉です。「『目には目を、歯には歯を。』本来これは罪の故に私たちが受けるべき裁きをも示しています。神を拒絶する者を、神が拒絶なさって当然なのです。しかし主が十字架の上で私たちに代わって裁きを引き受けてくださった時、私たちがこの当然の報いから解放されました。「御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネによる福音書 3章16節)誰でもイエス・キリストを救い主と信じる者は裁かれることはありません。やがて、終わりの日、永遠の命を味わい知ることになります。救い主イエス・キリストが私たちの命の道を開いてくださったことを感謝いたしましょう。

(記 説教要約奉仕者)